

| | |
|---------------|---|
| Title | 言語文化学 Vol.11 学会の活動/会則 |
| Author(s) | |
| Citation | 大阪大学言語文化学. 11 p.133-p.136 |
| Issue Date | 2002-03-29 |
| oaire:version | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/77985 |
| rights | |
| Note | |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

学会の活動

平成 13 年 6 月 30 日 大阪大学言語文化学会第 20 回大会

〈研究発表会〉

- 仲 潔：英語教育と英語帝国主義；その分類化試論
- 崔 信淑：日常生活における詫び行動に関する日中韓対照研究
－話し手側調査の言語表現を中心に－
- 山本 純平：Scrambling and Weak Crossover in Japanese
- 今泉志奈子：プロトタイプ属性に基づくカテゴリー化についての
考察－抽象名詞「趣味」の意味構造を求めて－
- 吉野 太郎：アメリカ西海岸 NPO から見るコンピュータ支援
NPO の現在
- 高馬 京子：日仏モード記事におけるモード生成メカニズムの差異
について－フランスブランド／ルイ・ヴィトンを事例
として－
- 石丸久美子：フランスにおける女性の権利の変遷－《droits de
l'homme》を検証する－
- 竹山 直子：英語関連産業と美容産業の広告の共通点について－マ
スメディアの欧米志向批判の観点から－
- 桂 小蘭：古代中国社会生活における犬の役割について
- 宮西(藤井)久美子：『漢語拼音方案』と少数民族－建国当初の言語政
策が目指したもの－

〈総会〉

活動報告

委員改選

新委員：

由本陽子(委員長)、小門典夫、高岡幸一、力武京子、ディボフ
スキー・アレクサンドル(前期)、ヨコタ村上孝之(後期)

今泉志奈子、大平未央子、篠内智

岩男考哲、北尾泰幸、田中研也、中越綾、原田千晶

会計報告(次頁の通り)

平成 13 年 10 月 11 日 大阪大学言語文化学会第 21 回大会

〈研究発表会〉

- 加瀬佳代子：鉄道と「進歩」の観念－田口卯吉「鉄道論」の考察－
張 起權：現代韓国における学生運動とマダン劇運動
竹田 聖基：スポーツのレトリック
－「生」と「死」の表現に関する認知言語学的分析－
中道 静香：アラビア語（カイロ方言）における受動を表す二つの
分詞のアスペクト対立について
河本 雅一：下位タイプ条件文の語用論的分析
－多層的分析と単層的分析－

平成 14 年 3 月 31 日『言語文化学 第 11 号』発行

〈査読者〉

- 伊勢芳夫、岩根 久、植田晃次、大村敬一、沖田知子、尾崎久男、
金崎春幸、北村 卓、木村健治、木村茂雄、小門典夫、小口一郎、
小杉 世、斉藤 渉、坂内千里、佐藤 彰、高岡幸一、津田 葵、
津田保夫、中 直一、春木仁孝、日野信行、深澤一幸、水野博子、
三藤 博、山下 仁、山本佳樹、ヨコタ村上・ジェリー、我田広之、
渡邊伸治

《平成 12 年度 言語文化学会 会計報告》

(単位：円)

| 収 入 | | 支 出 | |
|-----------|-----------|------------------|-----------|
| 前年度繰越金 | 791,642 | 『言語文化学』第 10 号印刷代 | 925,000 |
| 学会費 | 858,000 | 『言語文化学』第 10 号発送費 | 78,860 |
| 懇親会費 | 19,000 | 懇親会費 | 36,678 |
| 利子・利息 | 124 | 通信費 | 55,565 |
| 『言語文化学』売上 | 8,810 | 消耗品費 | 8,567 |
| | | 学会受付謝礼 | 29,600 |
| | | 次年度繰越金 | 543,306 |
| 計 | 1,677,576 | 計 | 1,677,576 |

平成 12 年度会計担当委員 大平未央子
会計監査（平成 13 年 6 月 29 日） 植田 晃次
加藤 真理

大阪大学言語文化学会会則

- 第1条 本会は大阪大学言語文化学会と称する。
- 第2条 本会の会員は次の2種とする。
1. 通常会員：大阪大学言語文化研究科及び言語文化部の教官、大学院院生、大学院修了者で所定の会費を納めたもの。
 2. 特別会員：元教官及び本会にとくに貢献したもの。
- 第3条 本会は会員の学術研究を促進するとともに、研究成果の普及をはかり、広く学術全般の進展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は前条の目的を達するために研究会を開催し、機関誌を発行する。
- 第5条 本会の会員は機関誌の配布を受ける。
- 第6条 本会は第3条の目的を達するために年1回、言語文化学会総会を開催する。
- 第7条 本会に次の役員をおく。
1. 会長及び委員、監事をおく。
 2. 会長を言語文化研究科長、副会長を言語文化部長とする。
 3. 委員は原則として教官より5名、大学院院生より5名を選出する。なお別に事務担当をおくことができる。
 4. 監事は2名とし、会計の監査にあたる。監事は会長が委属する。
- 第8条 本会に委員会をおく。
1. 委員会は前条3の委員をもって構成する。
 2. 委員会に委員の互選による委員長、企画・編集委員（若干名）、会計委員（若干名）をおく。
 3. 委員会は本会の運営にあたる。
- 第9条 役員の任期は次の通りとする。
1. 会長及び副会長の任期は言語文化研究科長及び言語文化部長の任期に従う。
 2. 委員の任期は1年とする。
 3. 監事の任期は1年とする。
- 第10条 本会の経費は会員の会費及びその他の収入による。
1. 会費は付則に定めるところによる。

2. 本会の会計年度は毎年4月より翌年3月までとする。

第11条 本会の事務局は大阪大学言語文化研究科内におく。

- 付則
1. 通常会員は会費として年間3000円を納める。
 2. この会則の改正は、総会において出席者の3分の2以上の賛同を必要とする。
 3. 本会則は平成3年5月8日より発効する。